

コープおおいた 豊後梅を相馬市の小学校へ贈呈

コープおおいたは、震災直後の人的支援をきっかけに、コープふくしま及び福島県への支援を進め、8月末には大分より37名の組合員と取引先が福島を訪れる「交流会」を実施するなどして連携を深めてきました。6月のコープおおいたの総代会にはコープふくしま専務理事の野中俊吉氏が出席し、9月に行われたコープふくしまの総代会には、今度はコープおおいた専務理事の青木博範氏らが出席するなど、関係はより密接になり、継続的な支援に向け足場固めは進みつつあります。

11月14日から16日には6名が大分より福島へ。今後も末永く支援する決意の象徴として贈呈を決めていた、福島県会津地方の特産品「高田梅」のルーツとも言われる大分県の県木、「豊後梅」の苗木を相馬市、新地町の小中学校に運びました。当日は午前相馬市立桜丘小学校、午後新地町立福田小学校で植樹式を実施し、コープおおいたの松尾孝子組合員理事らが、両校の生徒の皆さんと力を合わせ、校庭の一角に苗木を植えました。

出席した桜丘小学校の4年生からは「実がなるのが楽しみ」、福田小学校の6年生からは「卒業式には花が見たい」と喜びの声が聞かれました。また、福田小学校からは、夏の交流会時に贈った義援金で、生徒の成長を記録するためのデジタルカメラとビデオを購入したという報告とお礼も。

なお、夏場、窓の開けられない教室で使うための扇風機を贈った相馬市の小学校からは、コープおおいたへ感謝の手紙が届いているとのことでした。

植樹後は、大きな被害を受けたJR常磐線新地駅や海水浴場を、車を降り徒歩で視察。いまだ震災の傷跡が残る現場の現状を確認しました。

その後は新地町小川公園応急仮設住宅を訪問し、今後も意義ある支援を行なっていくための指針を得るべく、住民の方に1時間近くお話を伺いました。この団地はかつては、海岸のそばに住み漁業を営んでいた方々が多く暮らしていました。対応してくださった4人



豊後梅の苗木を贈呈する、
コープおおいた佐藤麻美組合員理事。



児童も一緒に豊後梅の苗を植えました。

の住民の方々は「海岸に比べると少し標高が高いだけだが、気温が低い。仮設住宅での冬は厳しいものになると思う」と危惧しており、何か必要な物資などはあるかを聞くと「集会所に血圧計があると健康管理がマメにできるとってはいる」など、率直な思いを伝えてくださいました。

また、代表が8月の交流会に参加したコープおおいたの福島支援への賛同企業が、年末に実施を希望する大分郷土料理「とりめし」を仮設住宅団地でふるまう催しが実施可能かを聞くと「正直、いろいろと不便もある仮設住宅という環境で明るく正月が迎えられたいとは思えずにいた。年末にそうした楽しい催しを開いていただけるのは本当にありがたい。大分の料理を食べられるのは個人的に非常に楽しみ」との言葉も。後日、血圧計2個と業務用大型ファンヒーターを贈りました。購入資金は11月におこなった「ふくしま支援バザー」の売上金の一部を使用しました。

よかれと思った支援でも、仲介者を介するのみで、直接顔を合わせずにことを進めれば、行き違いが起こる可能性はあります。コープおおいたの「直接現地に足を運び、仮設住宅に住む方々の実際の気持ちを確かめにいく」という姿勢は、「物資以上に、気持ちを寄り添わせることに大きな意味がある」といわれるこれからの支援では、重要なものかもしれません。

なお、コープおおいたの福島支援の輪は、大分県内の企業や団体に広がりを見せているとのことで、「とりめし」をふるまう催しのほかにも、8月の交流会に参加した大分県ボランティアネットワークの担当者が中心となり、南相馬市の子供たちを大分に招き、思いきり屋外で遊んでもらおうという計画も進んでいるそうです。今回の訪問では、この取り組みに関する打ち合わせも行なわれました(到着日の14日に南相馬市で実施)。

それ以外にも、コープおおいたの組合員活動としては組合員から物品を募って行なう復興支援バザーを、11月22日、24日に開催するとのことでした。

沿岸部から福島市内への帰路の車内で青木専務理事に今後の支援をどう進めようとしているかを聞きました。

「コープおおいたは、最後まで福島を支援すると言い続けてきました。ただ、組合員さんと話をすると『最後まで』とはどういうことか、ということをつねられます。それは、僕らが決めるのではなく、被災地の方々が感じている必要な支援の内容が決めるものだと思います。それをよく聞き出していくことがいっそう必要になっているといえます。コープふくしまの皆さんに相談をもちかけ、率直な声を聞き、今後何をすべきかは決めていきたいと思います。

とはいえ、基本的なところは変わりません。続けてきた買い支え支援、組合員の交流会、放射能の学習会については今後も続けていきます。

多少のアレンジはあるかもしれませんが。たとえばコープおおいたとしてやってきた買い支えも、もっと広く、可能であれば九州を単位にすることができないか働きかけていくことであるとか。交流会であれば今度は福島の方を大分に招くという形もある。放射能の学習会も、希望者がいればコープふくしまさんが進めている除染ボランティアへの参加と組み合わせてもいい。そういったものですね」